

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、3番上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

師走に入りまして、大分外の気温も低いところで、寒さを身にしみているわけですが、先ほどまで上野議員さんの応援団が傍聴席を埋め尽くしておりましたけど、見事にこの10分の休憩の間で誰もいらっしゃらなくなり、世間の厳しさを、世間の寒さを身にしみている私でございます。

本日、最後のバッターとして一般質問させていただきますので、最後までよろしく願いいたします。

それでは、本日、武雄市の今後の方向性についてと、毎度毎度でございますけど、通告をさせていただきます。

きのうから話が出ておりますけれども、現在、世間では衆議院選挙の真っ最中でございます。この3年3カ月がどうだったかというのは抜きにしましても、私自身が社団法人武雄青年会議所に始まり、日本青年会議所佐賀ブロック協議会と、県内一連の同志の仲間たちと常々取り組んできましたローカルマニフェストの推進活動、運動ですね。長年私も携わってきておりまして、私もこのマニフェスト選挙というのを非常に推進しておるところでございます。市長も毎度選挙に出られるたびにマニフェスト等を掲げられております。ただ、この3年3カ月でこのマニフェストの重みというのが何か軽んじられているような、個人的な雰囲気を感じておるところでございます。このマニフェスト選挙、市長はどのようなお考えをお持ちになられておりますか。私は推進をしておりますけれども、市長の考えをまず最初に伺いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕はマニフェストという言葉が大嫌いです。そもそもこれはイギリスのある党のお約束事項で来た言葉で、だから、日本になじまないからマニフェストとかとなっちゃうわけですよ。ですので、私はマニフェストという言葉を使ったことはありません。最初、具約と書いて、具体的なお約束というふうに書いて、その中身についても、あんな民主党の事細かなことを書くというのはやりません。それは無理ですもん。ですので、あれ本当ね、民主党を全否定するわけじゃないですけども、いい分もあります、政権交代してよくなった部分もあります。しかし、民主党の最大の負の遺産というのは、マニフェストが詐欺フェストになってしまったと。もう少し受けると思ったんですけど、これは余り言わないほうがいいんですかね、大丈夫ですかね。また訴えられると困っちゃうんでね。

本当にそうなんです。政治家の言葉、あるいは口頭の約束がもう信じられないとなって

いるんですよ。ですので、やっぱりできないことは書くなと、あるいはやれることをちゃんとしっかり書くということにとどめておいたほうがいいと。今回、国民の皆さんたちみんなそう思っていると思いますよ。ですので、J Cの皆さんたちをお願いしたいのは、やっぱりその検証をちゃんとやってほしいということなんですよ。そうすると、あんな民主党のばかなマニフェストなんか出てきませんよ。検証をしっかりする、その上で最低限すると、これはどうできましたかって。ですので、今度政権をとると、また変わるとは思いますけれども、そのときもしっかりJ Cは見ていくべきだと思いますね。そういうことをしないから、この前みたいなバラ色になってしまったというふうに思っていますので、余り細かく数字は書かない、政治は基本的に意思です。その政治の意思に基づいて、それを細かく順序立てしていくのが行政の仕事だと思うんですよ。だから、そこを政治が何でも細かい数字を書くというのは大反対です。ですので、今度そういうふうな形になっていけばいいなという事は思います。そういう意味で、私はマニフェストという言葉は嫌いですが、具体的に細かくじゃなくて、具体的に書くことについては賛成、しかも、それにちゃんと検証をするということが絶対に僕は必要だと、このように思っております。

それと、最後にします。議員さんのマニフェストと我々首長とまた違うんですよ。違うんで、その整理というのは必要なのかなということも思います。それと、地方議会と国会とまた違いますもんね。ですので、その整理は必要だと。それはJ Cでぜひ提言をしていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

まさにそのとおりなんですよね。もう言ったことをやれと、だから、今回の選挙もマニフェストをしっかり皆さん見きわめてぜひ投票に行くようにお願いしたいなと思っておるところでございます。

それでは、本題にそろそろ入っていきますけれども、今回、大きい項目に分けて、1、教育について、2、まちづくりについてというところで、教育については高校環境の諸問題について、これも毎回私がやっているところではあるんですけど、次に2番のまちづくりについては、大きく分けると物産まつりに学ぶ武雄のまちづくりについてみたいな感じかなというところでありまして。

教育についてのところは、高校環境の諸問題については、今現在の子供たちの進路状況、それから通学にかかる費用、通学にかかる時間、あとは県内の配置状況、西部地区中心になりますけど、それと今後の武雄市としての方向性というような、細かく分けるとこういう流れになるのかなと。これはでき上がったのを後づけの流れですけど。

それでは、早速本題に入りたいと思いますけど、まず武雄市の現状について。

現在の市内の市立中学に通っている3年生の数です。武雄中学校が男の子が134名、女子が93名で合計227名ですね。武雄北中が合計で41名、川登中が34名、山内中90名、北方中61名、これが今現在の武雄市内の市立中学校に通っている中学3年生の数です。これ合計しますと453名の子どもたちが今春3月で卒業を迎えるというところでございます。453名の子どもたちの進路先、これは過去4年間で全て全部、私が持っている情報で出そろいましたので、ちょっと調べてみました。

武雄中——すみません、ちょっと切れていますね。この辺が私の詰め甘さかなと思いますけど、平成20年97.8%、95.5%、93.5%、94.9%、これが高校に進学している割合です。この4年間の平均が95.4%、同様に北中、20年、21年、23年は100%です、全て全員が高校に進学をしていると。たしかここは1人かな、で99.5%、川登中が98.4%、これも20年と22年は全員が高校に進学している。山内中に至っても97.3%、北方中が95.6%、これを平均する97.2%の子どもたちが高校に進学していると、まあぱっと見はほぼ全員ですけど、97.2ということで100じゃありませんから、そのうち何名かは就職したり、家事のお手伝いをやったりというような子がいるというような状況です。実際453名の97.2%といいますと、440名の生徒が高校へ進学するという流れになります。その440名の生徒が進学する上で、じゃ高校はどこに行くのという流れになると、現在では市内には皆さん御存じのように武雄高校1校だけしかございません。この武雄高校が来春から、今度の4月から40名の6クラス、240名の定員になります。440名のうちの240名というような感じで見てもらうと困るわけで、このうちの半分、3クラスは青陵中から参ります。ですから、実際この子たちの中で行ける門というのが120名になります。どんどんどんどん門が狭くなってきます。ただし、この120名には大町からとか伊万里、有田、江北、白石、嬉野、鹿島など、武雄を中心とした近隣のほうからも参ります、当然。となると、ここちょっとすみません、これとデータとしては若干違うんですけど、内進組も全て含めた今の武雄高校の生徒の中で、ほぼ半数が武雄市の子どもというような話を先日ちょっと行って話を伺ってきました。となると、この240名の半数がほぼ今回武雄になるだろうという見込みです。当然誤差はあります。ただし、120名の武雄の子が進学できているかということ、そうではなくて、既に青陵中学校の中に武雄の子が含まれておるわけですよ。もう既に20年には91名、21年82名、22年は86名、23年が82名、今の青陵中4クラスの中での160人の定数に対して、これだけの数の武雄市内の子どもが行っているわけですよ。となると、今の武雄高校の総枠の半分が武雄市の子、つまり120から、今が160のボーダーで計算していいのかどうか、ちょっとはっきりそこんたいはわかりませんが、これからいくと、新たに進学できるのはと考えると、もう四、五十人程度しかいないんじゃないかなというようなところを思っております。

となると、先ほど言いました440人の子が高校へ進学する、そのうち40人から50人、これはもちろん当然その年度年度の誤差はありますよ。ただ、それで先ほどの計算からいくと四、

五十人ということで考えれば、およそ9割の子が市外の高校に通学を余儀なくされるという現状があると私は思うんですけども、これについて教育長はどのように思われていますか、答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

全体的に青陵中、武雄高校含め約半数ちょっとの子どもたちが進学しているという状況でありますので、そのような数字になろうかと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これダブルカウントじゃないですか。これ青陵に行った子を入れた上で、またそれを差し引いているので、この90%という数字は僕は違うと思いますけど、ちょっとこれが出てくると、本当にそうなのかという話になりかねませんので、そこはちょっと議事ストップして、もう一回精査をする必要があると思います、議長。

○議長（杉原豊喜君）

暫時休憩をいたします。

休	憩	14時13分
再	開	14時17分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

ただいまの暫時休憩につきましては、パーセントの違いじゃないかということでございましたけれども、答弁を求めます。浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

4月の募集人員が武雄高校の場合に青陵中学校から4クラス参ります。それから、募集が3クラスでございます。そうしますと、大体半数でありますので、募集の40掛ける3の120人の約半数60人が武雄市内の中学校から進むということになってまいります。現在、青陵中学校に4クラスおります。四四、十六、160人の約半数が先ほどの数字で、市内から行っているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

いや当然、今は青陵4クラスで、高校の場合が3クラスになっています。ただ、今春、今度の3月からは3クラスになります。当然、受験の結果というのもありますから、パーセン

ページの前後というのは当然ありますよ。だから、私も一応前後という文言を入れておりますけど、これあくまでも注意してもらいたいのが市立中学校から入る子どもの数ということになりますから、そこをちょっとまず混同してもらわないようにしていただきたいなと思っておるんですけれども。

そしたら、これは各高校に占める武雄の生徒の割合、A工業高校が26.3%、全体3学年に対してですね。B工業高校が23.8%、C高校が29.2%、Dが27.8%、Eが16.9%、武雄の子が進んでいる割合の高いところから調べると、こういう数字になります。つまり、一つの高校で、多いところになると3人から4人のうちの1人は武雄の子が進んでいるという結果になります。これにはもちろん武雄高校は含まれておりません。市外の高校で武雄の子がどの程度行っているのかというところでの割合を出したものでございます。ちょっと見方を変えると、武雄の子でその高校ももっているというような見方をしても過言ではないのかなというような感じで思っておりますけど。

それでは、市立中学校を卒業する生徒の進学先をまとめてみました。県内の公立の普通高校に行っている割合が21年度が23.7%、22年度が25.8%、23年度が21.2%、これは当然武雄高校も含まれています。ほかにも伊万里高校であったり白石高校であったり、佐賀東や北、西、その辺の県内の公立高校が含まれている数字になります。これが県内の普通校ではない専門高校、工業高校だったり商業高校だったり実業だったり、今いろいろ農業高校もいろいろあるかと思っておりますけど、ここに進んでいるのが21年度が50%、22年度が48.5%、23年度が47.9%、これで既にほぼ半数の割合が出ているかなと。これに加えて、県内の私立の高校に進んでいる子どもたちというのが14.5%、22年度が12.9%、23年度が19.7%という数字です。もちろん当然この私立高校には普通科に進んでいる子もいますでしょうし、公立の専門高校にも普通科を常設しているようなところがあるかと思っておりますから、そういうところに進んでいる子も当然いるかと思っておりますけど、おおむね見方としては、ここの両側の数字というのが市立中学校を卒業した生徒の専門高校への進学の割合になるという見方をするのがいいのかなと思っております。

これについて教育長はどのように見られているか、御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

佐賀県全体が専門高校への進学が多いという数があるわけでありますが、ちょっと今その数値が記憶にありませんので、確認はいたしますけれども、全体的に佐賀県の場合が高くなっているという状況はあろうかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、聞かれてなくて答えるのも甚だ恐縮なんですが、僕この数字、意味ないと思うんですよ。というのは、自発的な意思で、例えば、石橋部長の息子さんは、偏差値が高いか低いか知りませんよ、ですが、自分から小学校のときから佐農に行くということで、日本の農業を立て直すという高い、お父さんとは違う志を持たれている。あるいは、私の親戚でもありますけど、もともと武雄高校に行く偏差値でも有工のデザイン科に行きたいという子もいるわけですよ。ですので、これは自発的かそうでないかというのがない限り、この数値というのはおよそ僕は意味がないというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

もちろん自発的かどうかというのは当然ありますよ。ただ、私が言いたいのは、結局専門高校に進学をしようとなったときに、これからちょっといろいろなところの情報を出そうかと思うんですけど、やはりふぐあいがいろいろなところであると思うんですよ。私の子どもだって、ここですよ。ここに入っていますよ。だから、それは子どもの意思でそういうところに行っているのはそれはそれでいいんですよ。ただ、中学3年生の時点でそこまでびしょと、早いほうがいいんでしょうけど、そこまで結論を出せる子どもというのなかなか少ないんじゃないかなと、本当に俺はここに行く、私はここに行くという強い意思があれば、それはそれで私は十分応援してやるべきことだと思いますけど、なかなかそうでない子どもも中におるといふようなところでちょっと行きたいと思います。

結局今の状況でいきますと、武雄からおおむね多いのは進学先としてはここをまず見たほうがいいのかと。ちょっと武雄温泉駅を中心に考えるのが恐縮ではあるんですけど、一応今武雄高校に行かない場合は電車通学ということを考えれば、通学費用面で武雄温泉駅から佐賀駅までは今現在、定期代が1カ月8,140円かかっています。肥前白石駅だと7,410円、有田駅だと5,820円、嬉野の場合は電車がありませんのでバスになりますけど、バスになると1万9,800円と、こういう金額が保護者の負担がこの部分要るといふような流れになります。ここが特に私は多いというふうに保護者の方からも聞いているんですけど、この定期代、金額が結構な金額になりますので、実際は保護者の方が送って、迎えに行くとしているところも伺っております。

一方、今度時間面で見ますと、武雄温泉駅から6時9分発、佐賀着は6時49分です、これは始発です。これより早いはありません。これで行くか、この次ですね、6時50分発、これで行くしかないんですよ、佐賀まで行くには。武雄温泉駅から白石駅になると、6時50分発、7時31分発、これだけです。逆、先ほどの登校の分の時間帯ですね。今度は帰り、帰りは子どもたちによってもいろいろ、部活をやっていたり、補習があったり、特科があっ

たりとかいろいろあると思いますから、そこら辺の違いは当然出てくるかと思いますが、この辺からがおおむね帰宅に使う電車の時間帯になると。この辺は当然部活もそういうのもできないと思うんですけど、部活をやっている子どもというのはほとんどがこれかこれという事で聞いています。うちの子もこういうのでほとんど帰ってきますから、結構電車の中はそういう子ばかりと。ほとんどの子どもが部活をやる、補習を受ける、特科を受けるとなると、ほとんどの子が9時5分か10時17分に武雄に着くと、こういう時間になります。

一方、白石駅で見ると、こういう時間ですね。時間的には4時32分から筆頭に9時40分ぐらいが普通に帰れる時間かなと。ここを見てもraitainですけど、4時台の電車だと武雄まで27分で着くんですよ。ただ、部活動とか行くと、6時55分とか7時58分に乗ると、武雄まで86分とか67分かかる。これ乗りかえがあるんで、肥前山口駅かどこかでの乗りかえがうまくスムーズにいかないということで、この時間かかっていると。部活動をやるとなると、当然この辺の時間になりますから、乗りかえが不便で1時間以上かかっていると。実際のところふたをあけると、男の子は自転車で1時間かけて往復していると。片道1時間ですね、おおむね1時間です。行くという子どもがたくさんいるようでございます。

こういうことについて、朝は6時台、帰りは家に帰るのは9時半とか10時、こういう現状を見て、教育長の見解を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ちょうど白石から武雄温泉駅への時刻表を出してもらっていますが、確かに86分、67分、肥前山口駅での乗り継ぎの待ち時間というのがありまして、どうかしたら1時間近くあるわけですね。これにつきましては、ちょっと白石と佐農の校長先生と話したときに、随分要望はされているようでありまして、もうちょっと前のほうが長くかかっていたのがちょっと後に来ているのかなというような気がしますけれども、いずれにしても、通学上は時間的に時間がかかっているということはあろうかというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはあるべき姿じゃないかもしれませんが、私は許容の範囲内だと思います。というのも、例えば、牟田議長さん、高校時代、この方は私の家の前を1時間13分かけて武雄高校に行かれた、私もそうです。私も場合によってはアップダウンの激しいところに行っていましたので、四、五十分かけて行っていました。これ例えば、北海道とか、私が先般お邪魔した富山みたいに2時間かかる場合があるわけですよ。片道で2時間、3時間と、それはさすがにいろんな支援をしなきゃいけない、応援をしなきゃいけないとありますけど、これは理

想の姿じゃないかもしれないけれども、私は許容の範囲内だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

まあ許容の範囲内かどうかというのは、個人の見解の相違があるかなと思います。というのも、昔、私たちの時代と時代が違うと言われてもしようがないのかもわかりませんが、今「早寝早起き朝ごはん」というのを推進しているにもかかわらず今のそういう状況というのがちょっと私は納得いかないのかなというところもあります。ただ、先ほど教育長がおっしゃられたように、たしかこれやったと思うんですよ、この5時50分発、これが昔はもっと、60分、70分かかっていた時間帯だったはずなんです。これがダイヤ改正によって改善をしてもらったらしいです。ここら辺がまだそこまでいっていないというような状況ですし、この1時間自転車通学というのも、おっしゃるのはよくわかるんですけど、男の子はよかいですよね、結構、雨に濡れてでも、かっぱ着てでも自転車でどンドンやって行くというのはあるんですけど、女の子がかわいそうかなというのがあって、非常にそこは悩ましいところです。私の娘も自転車で30分かけて駅から行っていますよ。雨の日も晴れの日も、うてあいませんから、自分で自分なりに頑張っているんですけど、ここに書いてありますように、先ほどの話じゃないですけど、通学時間というのは大小さまざまでありますけど、今ここに算出している時間はあくまでも武雄温泉駅を基準に算出しているわけでありまして、これが武雄町の人間とか朝日町の駅周辺、またその山内の駅周辺、北方もそうですね、駅周辺の皆さんはまだいいですけど、駅から遠いところ、周辺部の皆さんが駅までの時間というのもこれも通学の時間に入るわけであって、それからまた駅から到着してさらに次の目的地の高校、ここに行く通学時間というのも当然ありますから、本当市内さまざまなんですよね。あくまでもここで今言っているのは電車通学の電車の時間帯だけを算出していますから、それ前後の通学時間を入れると、もっとさらにかかっているというような状況であります。

それでは、ここ今県内の高校の分布図ですね。学区別に分けられた分布図です。これが毎回私が出している資料なんですけど、これすみません、平成20年の6月現在の人口の数なんですけど、武雄市は5万1,826人の人口に対して公立高校が1校、ですから、1つの高校にかかる人口の割合を見ると、武雄は5万1,826人になります。佐賀市は23万人以上の人口がありますけれども、公立高校は7校、市立が5.5校、この.5というのは女子校のことです、女子だけの高校がありますから、それで割ると人口3万3,000人に対して1校があります。小城市は2校あります。ですから、人口で比較すると2万3,000人、おおむねこういうふうな数字ですよ。この人数に対して、今現在、公立高校が1校ありますよという数字になりますから、やっぱり武雄だけ突出しているんですよ。こっちは私立の高校を含めた数字です。

以前はここが武雄市は公立が2、私立が0.5でありました。そういう中で、県内10市の中で
の環境というのは私は突出していると思っております。

この県内の高校の分布図を見てもらいたいんですが、小さくて見づらいんで、ちょっとエ
リアごとに拡大してみます。これ伊万里地区です。伊万里地区だと伊万里農林と伊万里高校
の距離というのが、これ歩いての距離になるんですけど、おおむね1.8キロです。伊万里高
校から伊万里商業までの距離というのがおおむね2.5キロ、伊万里農林と伊万里商業が3.7キ
ロ、つまり一番長い距離で3.7キロ四方の中に高校が3校、伊万里には集中しています。

これで、こちら藤津・鹿島地区、嬉野・鹿島地区、嬉野高校と塩田工業の距離というのが
歩いておおむね9.1キロ、これはちょっと比較にならないんですけど、ここですね、鹿島実
業と鹿島高校の距離というのは305メートル。こちら杵島地区ですね。杵島商業から白石高
校が3.4キロ、杵島商業から佐賀農業が5.1キロ、佐賀農業から白石高校が歩いて、これは遠
回りしないと行けない道しかなかったんで1キロになっています。

これで見ると思うんですが、伊万里地区、杵島地区、藤津・鹿島地区、嬉野・鹿島地区、
ここに高校が集中しているわけです。私が思うのは、この西部学区での地域間バランスとい
うのがとれていないんじゃないかなと思っているところがあるんですよ。やはりこの黄色の
丸、ここにあれば比較的地域間バランスはとれるんじゃないかなというような感じを持って
おるところでございます。これについて教育長の見解を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

これまでの議会におきましても、同様の御質問があったらというふうに思います。西部
学区の3地区という区切り方についても申し上げたというふうに思っております。これまで
の経緯からこういうような状況が生じているところだろうというふうに地図でわかることを
私も思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

（モニター使用）ちょっと上田議員、よろしければ前の見せていただけますか。市町別の、
これです。すみません、助かります。

これも実は余り意味がないと思っているんです。というのも、例えば、武雄市の場合だっ
たら、川登を考えてみましょう。あるいは山内の東部を考えた場合に、これは嬉野に近いん
ですね。あるいは、牟田前議長さんのお住まいになっている若木に関しては、伊万里のほう
が近いんですよ。これは私の実家の朝日もそうかもしれませぬ。ですので、この市であると、
これは唐津でも鳥栖でも同じような話になるんですよ。ですので、この市別の人口比率と

というのは、別に僕は武雄市がいいとは言っていないよ。いいとは言っていないけど、これをずっと出されるというのはいかなものかなというふうに思いますし、環境は突出してないと思いますよ。突出はしていない、環境はそんなによくないかもしれないけれども、僕は突出していないと思います。これも見解の相違かもしれません。

ちょっと進めていただいて、エリア別の、これですね、ありがとうございます。

武雄にあればいいんですけど、これ先ほど教育長が申したとおり、やっぱり歴史的な話があるんですよ。僕は固有名詞を挙げませんが、挙げるとまた訴えられかねませんので。例えば、ある工業高校が武雄市のある地区に進出をしたいという話がありました。そのときは町を挙げて反対しておるわけですよ。そうなんですよ。そういうことがやっぱりあるんですよ。これは鉄道の駅の話もそうなんですよ。だから、我々は今のこと、将来のことを考える前に、政治家は過去のことにも考えるべきなんですよ。それを振り返ってみたときに、じゃ武雄のあるべき姿はどうかなと考えた場合に、私は、これは見解の相違と言われても仕方ないんですけど、このエリアだったら、この近くだったら許容の範囲だと思います。これが先ほど申し上げたとおり、北海道とか、あるいは先般行った東北で、このエリアがもっと離れていけば話は別ですよ。ですが、これ見ている、これユーストリームでも流れていますけど、見てもらったらわかるとおり、そんなに遠くないわけですよ。僕は許容の範囲内だと思っています。これが例えば、通学で山口昌宏さんという議員さんがいらっしゃいます。この人は往復5時間かかっていたそうです。そんなにかかるんですかね、歩いて行っていたんですかね、わかりませんが。だから、そこまでいくと許容の範囲外ですよ。しかし、やっぱりこれは重ねてで申しわけありませんけど、確かに武雄地区の円上にあるべきだというのは議員と同じです。しかし、環境が悪いとか90%とかなんとかというのは、どうしてもそこは同意できないというのが私の見解です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

私はこう思います。その上で、今度、県教委の諮問先である生徒減少期対策審議会の新聞の記事です。これを見てもらえばわかりますけど、高校は4から8学級が適正だと、3学級以下は再編対象という記事です。ここの記事を拡大しますと、これも言っていることは一緒です。適正規模は1学年4から8学級、3学級以下で定員や教育活動を維持できない場合は再編対象という記事です。この次にもちょっとあるんですけど、ただ、学校の専門性や特殊性、地域の実情など特段の事情があれば3学級での存続も認めるという記事があります。

ここをちょっと見てみたいと思うんですけど、現状はどうなのか。今度の春、4月入学の募集定員を見えます。太良高校は募集定員80名です。募集定員120名というのが厳木、高志館、唐津南、伊万里農林、佐賀農業、伊万里商業、杵島商業、鹿島実業、唐津青翔、嬉野

高校、県内でこの11校が、先ほどの前の記事にもあったように、1学級4から8を維持できていない、つまり3学級以下での募集定員の高校です。11校ある中で、太良、伊万里農林、佐賀農業、伊万里商業、杵島商業、鹿島実業、嬉野高校、この7つの高校が武雄を含む西部学区になります。つまり、何が言いたいかというと、この西部学区の高校の7校が、先ほどの記事にもありましたように、地域性だったり特殊性だったりというのを維持できれば存続は可能ですけど、それがなければ再編の対象だというようなところに当てはまる高校になります。ここに当てはまるわけですね。私が思うのは、これがどこを見て、何年後で答申されているのかというのがちょっと私は疑問が残るところであるんですけど、これだけの高校がある中で、7校が西部学区、これが指す役割、意味、次のこの記事と関連して、教育長はこの状況をどう思われていますか、どう見られているか、見解をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先般まで行われておりました再編の対策審議会は、本当にこれから33年ぐらいを見越して、非常な少子化が進むという中でのかなりの削減をしないといけないだろうという決意のもとに進められているようであります。そういう面では、現在の3学級以下の11校のうち7校が西部学区というのも、現在の少子化の状況からは西部学区の減というところは当然の形かなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

私もそう思うんですね。この状況というのは、ちょっとまあ避けられないような現状なのかなと、1学年の適正規模が4クラスから8クラス、3クラス以下は再編の対象と。ただし、専門性、特殊性、地域の実情など特段の事情があれば3学級でも存続を認めるということではありますけど、一方で、中学卒業見込み者数の推移です。やはりこの少子化というのは右肩下がりで、見ればごらんのとおりにすぐわかるかと思います。ここ25年の3月、ここが今度の卒業生の該当するところですよ。ここから先、まだまだ減少が県内一円ではあるわけですよ。10年後を見ると、ここからするとほぼまだ1,000人ほど減るというような状況です。この少子化の流れの中で、11学校の中の7学校が西部学区にあって、11校が適正規模を満たしていないという中で、これから10年先、もっと維持できないところがいっぱい出てくるのかなと危惧しているところであります。

ただ、その中で武雄で考えていけば、ちょっとこれは見づらいんですけど、これはゼロ歳児から15歳児までの武雄の子どもの数です。ゼロ歳児が448人、15歳児は568人いますけど、そこから減少傾向ではあります。減少傾向ではありますけど、450人前後を維持していると。

これをグラフに直すと、これがすみませんけど、こっちが15歳です、向こうがゼロ歳です。ですから、本来グラフをつくる場合は逆になりますので、右肩下がり、このグラフは左肩が下がりますけど、これ反対に見てください。ただ、よその地区と比べると、武雄はそんなにさほど、この減少率というのは少ないです。

そういう状況を踏まえて、これまでの議会の動きを御紹介しますけど、さきの9月議会において意見書案を提出させていただきました。武雄市における高校教育環境の整備を求める意見書を9月議会に提出させていただきました、これがここにいる皆さんのおかげで全会一致にて可決しました。この可決を受けて、福祉文教常任委員会では県のほうに陳情を実施しました。そのときの陳情書の表紙になりますけど、県の副議長と石丸県議のほうに間を取り持っていただきまして、稲富県議はそのときはちょうど何か視察か何かで御都合が悪いということになられたんですけど、石丸県議のほうで対応をしていただきました。これが県の教育委員会への陳情をしているところの様子です。ここは、すみません、委員長はちょっと写っていないんですけど、福祉文教常任委員会のメンバーで行かせていただきました。

では、今回、教育委員会としては、この教育課程に関するアンケートを実施されております。この保護者の声を吸い上げるためにということで、6項目にわたりアンケートを実施されておりますけれども、その中の1つに、少子化が進み高校再編について話題になっております。中学生の進路についてどのようなことを望まれますかというアンケートがあります。先ほどの流れからいくと、ここがまず物すごく知りたいところであるんですけど、その前の段階も知りたいんですけど、そこら辺は今の現在の状況はどうなっているんでしょうか、答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

当面する武雄市の教育上の課題についてアンケートをとったところでありまして。その中で、お話にありましたように、高校再編についても保護者の皆様の御意見をお伺いしたところでございます。今、自由記述欄への記述等の整理がちょっと時間がかかっているわけでありまして、今週末あたりにはアンケート結果として公にできるかというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

自由記述欄、ここですね。ここの部分ですね、ここの集計はできていないということですけど、私が一番聞きたいのはここですよ、その上の少子化が進み、ここの部分というのはまだ集計ができていないということですか。じゃここにアンケートの集計結果は公表を原則と

しますが、個人が特定されるような記述はもちろんその辺は非公開としますが、公表を原則としますというふうに記載されております。これについては、今後どのような公表をされる予定なのか、そこら辺を答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

それぞれの項目につきまして、その数値、それから今記述等の意見というのが累計ができるのかというところですね。例えば、高校再編につきまして、恐らく想像されるところは一致するだろうと思うんですが、やっぱり普通高校なり専門高校なりと分かれるというような形も当然出てくるわけですね。そしたら、その中でも自由記述欄で累計ができるところもあるんじゃないかということでの作業をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに自由記述欄のところは教育長が申し上げるとおりだと思うんですけども、これはもともと何をやるかということなんですけれども、全国の共通の学力テストがあるじゃないですか、あれ今まで明かしていなかったんですよ。これ国費を投入してやる以上は少なくとも、例えば科目、あるいは学年別にその数値というのを出すべきだというのが私の見解だったんですよ。だけど、これは押しつけてはいけない、ワンマンになってはいけない、ですので、これを保護者の皆さんたちに聞いてみようということで、このアンケートをまずしようというふうに私が持ちかけたんですよ。で、教育長が、これ見解が全然違います、180度、教育長と僕とは。これがいいと思うんですよ。ですので、じゃ保護者の皆さんたちに聞いてみようということで、あわせて上田議員から御指摘のある中学生の進路についてどのようなことを望まれますかというのは、これ教育委員会の独自の見解で載せたということで、ちょっと僕も今手元に持っていませんけれども、少なくとも学力テストの公開については大部分の方々がそれは望ましいということを受けましたので、今週末にこの部分についてはフルオープンにします。フルオープンにして、県の教委との調整もありますけれども、調整がつけば今週の金曜日に各学校並びにうちのフェイスブックページで全部出します。

その一方で、出すべきもの、先ほど教育委員会からありましたけれども、これも特定されない限り、変な集計とかせんで出すべきだと思いますよ。出して、それで皆さんがその問題意識というのを共有していただくということが僕はすごく大事だと思っていますので、これはちょっと金曜日に間に合うかどうかというのは、ちょっと置いといたにしても、それは個人に特定されないということがきちんと担保できれば、僕は全部出すべきだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

おっしゃるように、自由記述の書き方によっては、一つの選択、その意味合いも変わってきたりというのは当然わかると思うんですよ、私もそう思います。ただ、このアンケートをとって、公開を原則としているというところも一応記載はされておる中ですので、私もそれは公開してもいいんじゃないかなというところもあります。ただ、先ほどの上野議員さんからの質問のところをちょっとおかりすると、学校と地域、家庭、行政の連携というようなところで話があって、私、教育長の答弁を聞いていて、この前された市連Pと教育委員との懇談会ですね、完全にもう非公開で自由討論をとにかくやろうよと、教育についてやろうよというような、そういう場を持ったわけじゃないですか。そういうところででもぜひやっていただいて、保護者の声をもっと吸い上げていただくということをやっていたら非常にいいんじゃないかなと思うわけですよ。なかなか公開となると皆さん言えないところもあったんですけど、最初にぼすつと、市連Pの会長さんが今回のこの会是非公開と、中身は一切外には漏らさないで非公開でと話があったら、どんどんどんどん今不満に思っていることとか、いろんなことを各学校の育友会の会長さん、PTAの会長さんがどんどん言い出したわけですよ。そういう場ででももんでいただければ、より保護者の声というのがまとまってくるんじゃないかなと。そこでも話がありましたけど、各単Pでもこのことについてもよく話をしてよとかいうこともあったんで、そこら辺はどうですか、そういうのも私はいいんじゃないかなと思うんですけど。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

この高校の問題については非常に私もずっと慎重に発言させてもらったと思うんですね。いろんな要素が絡むし、これだけのことが他市町へも直接かかわる問題であるだけに非常に慎重にならざるを得ないと。したがって、いろんな懇談の場があるというのは大変いいことだと思いますし、私どももその情報を知った上で考えるというのは当然のことだということに思っています。ただ、やはり制度なり仕組みとして進めていく上では、その話を聞いたことの中でやっぱり取捨選択して考えて進めるということになるわけで、全てをそういう形でしたほうがいいということではないと思いますが、そういう機会も確かにできるだけ必要だろうか、両方必要かなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕は違うと思います。基本的に公開が原則ですよ。やっぱりみんな関心を持っているわけ

ですよ。物理的に来れない人とか後で知りたい人たちというのが、その場でだったら密室じゃないですか。もう公開が大原則ですよ。ただし、個人情報とかなんとかすごいデリケートにわたる部分というのは、これは非公開ですよ。ですが、今後教育をどういうふうにするのか、あるいは地域とどう連携をするのかというのは公開が原則です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね、私も説明が悪い。ただ、ここに公表が原則というふうに記載があるので、それはそれで全然いいんじゃないかなと思っております。

それでは、この高校について武雄市としての今後の方向性としてではあるんですけど、これは西部学区を拡大した図にはなるんですけど、これは前回の議会でも私申し上げましたけど、やはり武雄高校と武雄青陵中学校を同一敷地内にて運営をし、それによって余った校舎を活用して新たに別の高校の運営をやはり武雄市としてはこれからも求めていくべきではないかなと思うわけです。ただし、前段でも話をしましたけど、少子化による高校再編の流れというのは、これは避けられないことだと思っております。これは先ほどの人口減少の部分も当然あるかと思いますので、私はこういう考えを持ってぜひ臨みたいなどっておるところです。例えば、2校を縮小するとなると、マイナス2プラス1で1校の縮小とか、2校縮小するんであれば3校を縮小してプラス1と、そこはエリアを考えて、十分可能な議論になるんじゃないかなと私は思うんですけど、これについての見解をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今年度末に案を作成するというふうに聞いております。そういう中で、先ほど来、話題になっている少子化というのは変わらない。したがって、高校再編せざるを得ないというのは事実だろうというふうに思います。それから、片方に中高一貫校の青陵中、武雄高校の成果も次第に出てくるだろうというふうに思います。

そういう中で、きょうおっしゃったような課題等があるかというふうに思います。したがって、この3月までの県教委の西部学区の再編作業の中で、武雄市としての可能性というのはどこにあるのか、そこは考えていきたいというふうにしております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きょうは上田議員となかなか意見が違って、これはいいことだと思うんですけど、私、高校再編のあり方は大賛成です、後段の部分の。確かに議員さんのおっしゃるとおり。これ

はいい案だなと思っていますので、私も教育の懇談会に呼ばれる機会がこのごろふえていますので、これはそういう気持ちを持ってお話をしたいと思います。いい案をありがとうございます。

上は無理です。これ武雄青陵中をなくせということと同義ですよ。だって武雄高校を同一敷地内で運営、これは高校として運営するわけですよ。

〔3番「いや中高」〕

中高で。

〔3番「同じ敷地内で中高一貫」〕

敷地内で運営すると、それによって余った校舎で別の高校を運営するという、ああ、どっちにしても無理です。やっぱり我々政治家は現実問題を考えなきゃいけない。もちろん理想を追うということは大事だけれども、やっぱりできないことはできないと言うのが僕の姿勢なんです。これだけ少子化が進んでいって、これ理科の実験だったらいいですよ、これやってもいいと思いますよ。ただし、武雄青陵中は産声を上げて、今歴史をつくろうと思って懸命に学校の先生とか地域の皆さんとか保護者とか生徒諸君が頑張っているわけですよ。その気持ちというのを僕はこれをやるとないがしろになるような気がするんです。ですので、僕はあの地で生まれた以上は、それは一生懸命応援するということが僕は政治家として求められていることだと思いますので、これについては僕は反対します。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほど意見書等々、ここの議会で全会一致で可決したというところにこれは記載をしているんですよ。

〔市長「だから、僕は反対です」〕

だから、一応それは議会と市長の見解の相違があるというところであると思います。ただ、私も武雄高校の学校の関係者、青陵中の関係者の方に話を伺ったところ、県内では中高一貫が同一敷地内でやっていないのはここだけなんです。やはり同一敷地内でやることによってメリットは十分にあるというのは、どちらの見解もそういうふうだったので、それはそれでぜひ実現してもらおうのが一番いいんじゃないかなと思いますので、これを記載しているところでございます。

では、教育についてはここら辺で終わらして、次、まちづくりについて入りたいと思います。

観光のまち武雄ということで、物産まつりに学ぶに武雄のまちづくりということで、この4項目の流れとしては上げておりますけれども、観光のまち武雄ということで、さきの9月議会にも一般質問させていただきましたけど、この楼門の塗装ですね、大分傷んでおるとこ

ろでございますけど、この塗装というのがほぼ正式に決定をしているということで大変喜ばしいことじゃないかなと思っております。これが歴史的な建造物ということでいけば、これもそうなんですけど、今回は長崎街道沿いにある田代酒造跡、これもちょっと取り上げてみたいと思います。

新町にありますこの田代酒造跡ですね、私もいろいろ見に行ったところ、やはりかなり傷みが激しいのかなと思っております。私もこの田代酒造跡の外観は見たことがあるんですけど、この中はどうなっているのかなというところで、ぜひこの中の写真でもあれば見せていただきたいと思うんですけど、ここら辺どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

（モニター使用）中の状況でございますけれども、これが和室であったところの状況でございます。こちらの床が見えていますところはシロアリで根太が落ちておりまして、平成20年9月に畳とか根太を撤去しております。こういう状況で、用具等も散乱している状況でございます。

それから、軒先でございますけれども、瓦とか泥、基礎の部分が一部欠落している状況でございます。しっくい塀の一部もこういう形で崩落しておりまして、雨漏りも発生している状況でございます。

こういう状況で大分傷んでいるという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そしたら、さっきの写真が、すごい写真やったですね。この田代酒造跡、この建物の取得に至った経緯を一旦確認したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

経緯につきましては、平成8年2月、ですから、年度と申しましては平成7年でございます。最初に大関酒造については、田代酒造から所有権が大関酒造さんに移っておいりましたので、大関酒造さんのほうから建物解体の打診があっただけでございます。その後、民間団体のほうから存続の要望があっただけでございます。平成9年の12月に最初に賃貸契約、建物が建っております部分だけの賃貸契約を結ばれております。それからその後、当時、中心市街地活性化に関する法律というのができまして、中心市街地の再生に向けて日本全国動きがございました。そういう動きに合わせまして、平成12年の7月に考える会、田代酒造跡地再生計画という提

案書が提案されました。これにつきましては、地元の区であるとか歴史に関する団体であるとか振興組合とか、こういういろんな各種の団体が合同して企画をされて提案という形になってございます。それを受けまして、平成14年3月に跡地の買収に至ったという経緯でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、珍しく怒っていますよ。何でこれを購入したのか。盗人に追い銭とまでは言いませんよ。言いませんが、これこんなの買っちゃだめですよ。もともと計画があつて、これをこういうふうにするということで購入すれば、多分納税者の皆さんたち納得していますけど、結局これ8,000万円も出しているんですよ。8,000万円も出して放置ですよ。今空き家ですよ、ぼや騒ぎですよ。もう負の遺産ですよ。これね、当時、何というんですか、まち研さんですか、あるいはこれに携わった旧武雄市議会の皆さんたちというのは、猛省を促したいと思えますよ。これを買っているからこういう結論になっているわけですよ。ですので、やっぱり真つ当な行政をやらなきゃ、あるいは真つ当な決断をしなきゃ。だから、本当にこれがあることによってどれだけ我々が迷惑をこうむったかということについては広く市民の皆さんたちにも知ってほしいなというふうに思います。

ですので、我々政治というのは、これは後世で必ず言われるんですよ。僕らの言っていることも後で批判されるかもしれないんです。だから、これは単に批判じゃなくて、自分に対する戒めとしても私は言っているつもりでいますので、この経緯を見たときに余計緊張感が走ったことを申したいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

8,000万円で購入して、いろんな各種の団体等々にいろいろ案を出してもらったりして、結局これは何かに、購入後一度でも何か利用されたんですか、そこんたいはどうですか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

実質は使われておりません。一部、がばいばあちゃんに関する資材の保存とか、そういう形では使っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

一度も使われていないというところで、ちょっと余りにも老朽化が目立っていたんで、管理上の不都合をお伺いしようかなと思いましたが、先ほど市長も言われたように、ぼや騒ぎ等々もあっているというところですね。じゃその対策として今何かやられているんですか、答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

平成18年の3月に不審火によるぼやということで騒ぎがありました。近隣の家屋への影響ということも想定されますし、あるいは子どもたちへの危険性ということも想定されますので、対策としましては警備委託をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

8,000万円で購入して使われていないと、さらにはそういうふう到现在空家状態で警備も委託していると。それ警備会社に委託すると当然ランニングコストもかかりますよね。

では、これは今後市としてはどうするつもりなのか、この方向性を答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

解体します。その上で、広くどういうふうにするかというのは市民の皆さんたちにこういうふうに使いたいということ、あるいは議会の皆さんたちも、失地回復ですよ、議会の皆さんたちは。山内、北方の皆さんたちは関係ないですよ。ですが、旧武雄市議会の皆さんたちには失地回復、いい意見を出してほしいなというふうに思います。その上で、我々としては市民価値が高くなるようにするかということについては、いろんな用途を検討した上で、また再度議会に相談させていただいて、議決という形でまた使っていきたいと思います。その間はまず解体、一方で、その中で何年かかけて、1年か2年かわかりませんが、時間をかけてどういうふうにするかということについてはいろんな意見を、行政の中でもいろんな意見を出していきたいと思いますので、万機公論に決すべし。ここの場所、もともと田代酒造があるところというのはいい場所なんですよ、歴史的に見ても。ですので、その場所の優位性を生かして、どういったことができるかというのは広く市民の皆さんの声に耳を澄ませてまいりたいと、多聞第一、そのように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

解体というような方向ですね。それはわかりました。

そしたら、ちょっと気になる、ここですよ。地元の区、またその関係のいろんな、先ほど出てきた団体関係ですね、そこら辺は多分歴史的な部分というのがあるからこその話だと思うんですよね。だから、そこら辺の皆さんとの調整というのはどうなっているか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この件については、やっぱり地元が第一ですので、宮下部長を中心として地元新町区を初め、町のまちづくり協議会、あるいは観光協会、歴史研究会、建築士会にはこの状況を説明して、今後の方向性についても内諾をいただいていると、宮下部長がそういうふうに言っています。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。なるべく関係団体と調整をしながらでお願いしたいと思います。

それでは、続いて武雄市の物産まつりについて振り返っていききたいなと思っています。

物産まつりは市長の演告の中にありましたけれども、来場者が5万人、さらには北方インターから会場までが渋滞をしたというような発言をされました。これについては、イベントミックスの効果があつたんじゃないかなと思うんですよね。物産まつりに合わせてちゃんぽんフェスティバルだったり、美味暮（おしくら）まんじゅう選手権、この議場ではフェイスブック学会、温泉通りほかを使つての食育まつり、そのほかにもいろいろとイベントミックスがあつたんじゃないかなと思っています。これちょっと色的には違いますが、白岩球場では高校野球の大会があつているというようなところでございます。

今回会場になつたのが昨年に続いて中央公園が会場というような形で選定されたわけですが、中央公園をするとなると、メリットとしてはやはりカーナビでも市役所というのは検索が簡単だと思うんですよね。だから、どんなところからでも来やすいのは来やすいのかなと。JRの武雄温泉駅から市役所の中央公園までだと歩いて5分ほどという流れの中で、非常にいい立地条件じゃないかなと思うんですけど、駐車場に関しては白岩運動公園と競輪場、総合庁舎などを利用しながら、シャトルバスで会場とのピストン輸送を行ったというような話を伺っております。

先ほどの話に戻りますが、5万人のお客さんは、要は武雄市民の皆さんの数と同じ数がどつと来たと。で、武雄北方インターから市役所のアクセス道路が渋滞を起こしてしまったということでありましたけど、中央公園の北側、松原通りは現在も区画整理事業の真ただ中でありまして。このインターから市役所はおおむねはバイパスのほうから来るでしょうけど、

こっちのルートも当然使っていると思うんですよ。この区画整理事業の影響というのがこの物産まつりの会場までの渋滞に影響があったのかどうなのか、そこら辺を答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

物産まつりに対する交通のことだと思いますが、現在工事しておりますが、暫定供用をしております、それでも上下の2車線は確保しておりますので、工事が原因で渋滞したという判断はしていません。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

工事が影響はしていないということですけど、ただ、一般の利用者からすると、その道が工事があるとなれば、どうしてもそこを避けてバイパスのほうに行くんじゃないかなと思うんですよ。だから、影響が全くゼロということはないと思うんですけど、まあわかりました。

それでは、区画整理からいって、今度、西浦地区ですね。これちょっと前の写真なんですけど、ここからこの西浦交差点から奥に入る西浦通り、この事業が今の現状ではどうなっているか、ここをまず確認をしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

西浦通りにつきましては、現在、工事が入っています。まだ移転補償ができていないこともありまして、当面目標としているのは中町通りのところまでですね。あれを早く仕上げると。その関係で、交差点の関係で若干それから先のほうに何軒は移転せざるを得ん家屋が出てきています。まずそこまでを当面早く実施したいと考えております。

〔3番「予定」〕

今24年ですので、一応27年というふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

それでは、その先のほうに行きまして、今度は永松地区ですね。永松地区もここら辺がずっと改良工事が進んでいくんじゃないかなというようなところであるんですけども、こっちな。ここら辺はどうですか。今後の予定としては、見通し、ここがいつあくのかなというのをおわせてぜひ答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

駅の横で永松川良線という路線です。これ今、高架下だけあけておりますが、これを駅の南口のほうに延伸するという都市計画手続を今行ったばかりでございます。したがって、駅周辺整備と合わせてせざるを得ないということで、今年度、駅周辺のほうは詳細調査に入ります。したがって、平成25年度から本格的に事業に入りたいと思います。

これから上、まだ永松川のほうにはこれも中途半端で終わってしまいます。これにつきましては、富岡郵便局ですか、あの付近ぐらいまでを延伸するわけですが、これは区画整理の進捗状況を見ながら着手時期を探っていきたいと。おおむね27年程度になるかなというふう考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

永松地区も西浦地区もおおむね27年を目標にということですね。なるべく早くやっていただければなと思っておりますので、お願いしておきます。

それでは続きまして、中央公園で物産まつりをやったんですけど、受けた感覚からいくと、フェイスブック学会等も始めて、県外からの集客というのも結構見受けられたんじゃないかなと思っております。

そこで、ちょっと新幹線に絡めていきたいなと思うんですけど、これがうまくいくと、またもっと武雄というのが近くなるなど、県外のお客さんからも見て近くなるなというところでありまして、ちょっと新幹線の話に入りますけど、これ小さくて見づらいと思います。西九州新幹線の概要図、現在の事業認可の部分ですね。これについてですけれども、今の計画でいくと、肥前山口駅から武雄温泉駅まで在来線を使って、ここからまた来る標準軌、新鳥栖から武雄温泉までは狭軌というような今の事業認可ではありますけれども、これ前回の議会でも申し上げましたけど、これ北方の新橋地区の河川の氾濫、水害状況のときに撮った写真です。今の在来線のルート、ここをフリーゲージが通るとなると、どうしてもやっぱりここを通らんといかんわけですよ。ここは皆さん御存じのように、結構水害が発生する確率が非常に高いところだと私は思うんですよ。今のままいくと、ここを新幹線が通るような形、新幹線フリーゲージが通るような形になると、やはり大雨になるとすぐここ冠水してしまったときにはすぐとまってしまう新幹線をつくってしまうというような方向になるんじゃないかなと思っております。こういうことです。在来線使用ということになると、ここでしよう。このルートを通ることになると、大雨時は走れないんじゃないかなという危惧をしております。

これは複線化については、新幹線スキームでということですので、これは大歓迎です。これももちろん大歓迎なんですけど、これで前回の議会でフル規格の話をしました。私も同様に思っているのは、在来線活用の既存ルートにとらわれず、ルート変更を趣旨とする答弁をいただいたところで、私も同意だったんですけど、そこで出てきたのが高速の上だったりとか高速の側道、それから大和インター付近に新駅設置、多久市方面から黒尾の山口良広さん家の前を通過とかというような答弁をいただいたかと思うんですけど、この答弁を要約すると、結局はこういうことなのかと、これは迂回ですよ。こういうルートを通るのかまだよくわかりませんよ、ルートのあれは。ここから別のルートを通っていくと、こういうことを申し上げられたのかなと。答弁を聞いている中ではどういうことを言っているのか、ちょっとわかりにくいかなと思いましたので、改めてここをもう一回答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは選挙の話じゃないですよ。今村雅弘さんという方が常々おっしゃっているのは、私はフル規格でいきたいとおっしゃっていて、自民党の主たる皆さんたちもやっぱり新幹線はフル規格がいいということをおっしゃっていますので、有言実行してもらいたいと思いますよ。有言実行しなかったのは民主党ですよ。

それで、そうやってきたときにこのルートというのは、以前答弁で申し上げましたとおり、前々の知事さんのときに話があって、少なくとも大和のインターあたりが新駅になって、そこから今の路線の北のほうですよ、ずっと多久のほうを通過して、ここに書いてありますとおり、山口良広さんの家の前を通過して、武雄温泉駅で長崎に行くということがフル規格の軌道上、それが一番効率的だということはもともと出ているんですよ。私も総務省にいたときは、その話は聞いていました。ああ、武雄はフル規格でいくとばいと思っていましたもんね。そいぎあれですもんね、何かフリーゲージという、あれは新幹線じゃありません、鈍幹線です。ですので、そういった意味からすると、私はフル規格、賛成。ただし、これは知事と気持ちは全く一緒なんですけど、それによって佐賀県の負担、あるいは武雄市の負担がふえるというのは反対です。あくまでもこれは国民の利便性が高くなるわけですよ、国民の。県外とか、だから、それでフル規格にするからといって、追加の費用負担を佐賀県とか武雄市がするというのは反対、真っ向反対します。ですので、一応そういうふうな経緯で、だから、これでいうと、どちらかというところの青じゃなくて、ショッキングピンクに近いのがもともとの案だというふうに私は稲富県議からも聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

まさに、ルートは私はちょっとあれですけど、こういうルートでもいって、とにかくフル規格を実現したほうが武雄のためにもなるし、日本のためにもなると思いますので、ここはやっぱりもっと声をどんどん上げていくべきじゃないかなと思っております。

次に行きます。そしたら、今回の物産まつりの会場となったのは中央公園だけでなく、ここですね、この建物がファミリーマートさんですね、の西側、街なか広場の手前になるとかな、街なか広場になるんですかね。そこら辺、とにかく市役所の前の中央公園を一带にして、いろんなところを使ったと思うんですよ。イベントミックスの効果も当然あったかと思うんですけど、この部分ですね、この辺の部分を使われたというふうに思うんですけど、これが全体のパース図になります。これが市役所ですね。市役所前の中央公園、それからこの部分の広場、それからこっちもJA販売エリアとかというふうにあります。ここファミリーマートさんがこれですね。

結局ここでやった、場所的にはやはりここが一番の最適な場所だったのかどうなのか、改めて振り返ってみて、そこだけをちょっと確認したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

物産まつりの会場としては、市役所周りの周辺と、中央公園だけでは不足しましたので、街なか広場と松原地区開発エリアの2区画を使っております。また、高架下の通路まで利用して町なかでにぎわいを創出することができました。現段階では今の場所が一番最適だというふうに認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

私も立地条件からいき、にぎわい創出、町なかのにぎわいをつくるという意味で、私もここが一番最適な場所じゃないかなと思うんですよ。ただ、今後、ちょっと振り返ってみたときに、当然松原通りとかを中心とした区画整理事業というのは早く進めてもらって、お客さんたちが来んさったときも通りやすい道、またきれいな道、まちにしたときが本当はいいんじゃないかなと思うんですけど、ここですよ。この庁舎のこの部分です。新幹線の用地にかかったりとかということで、用地がまたさらに減るわけですよ、今後これから何十年後かにかけて。庁舎の問題も当然ある中で、長期的なビジョンを持ってこのことも考えていけないんじゃないかなと思うんですけど、これについて答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まだここでは言えません。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ここでは言えませんと市長の口から言うのはあれですけど、私は、もう最後になりますけど、この庁舎建設を考える上で、体育施設だったり、今回物産まつりをした中央公園だったり、ここら辺の全てのランドデザインを考えていくべきじゃないかなと。これを考えた上で移転新築をするべきだと私個人は思っています。そこら辺をぜひお酌み取りいただきまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で3番上田議員の質問を終了させていただきます。